

クロスオーバーSUV 2代目 “ヴェゼル” 登場

トヨタ “レクサス” は電動化の流れへ

新しいヴェゼル

ホンダは「ヴェゼル」を約7年ぶりにフルモデルチェンジし、4月23日に発売しました。デザインを大幅に刷新したほか、「フィット」に搭載するe:HEV モーター走行を中心にさまざまなドライブモードを使い分け、電動化コア技術である高効率・低燃費な2モーターハイブリッドシステムの性能をより向上した電動パワートレインを採用しています。



モーターのみで走行する「EVモード」、エンジンとバッテリーにより加速する「ハイブリッドモード」、高速走行時などにエンジンの力で走る「エンジンモード」の3つの走行モードを切り換えて、操る楽しさを体感できます。

2代目となるヴェゼルでは初代と比べ、ボディ全高が20mm低くなり、クーペ調のデザインが強調されています。一方、全長は旧型と同じ4330mmで、インテリジェントパワーユニット (IPU) を新設計するなど、荷室のユーティリティスペースを確保しています。

先進運転支援システム (ADAS) のセンサー類はフィットと同様ですが、二輪車検知などの機能や、単眼カメラにはヒーター機能を搭載するなど、ADASをより広い範囲で機能できるように改良されています。


また、コネクテッド機能も拡充しており、新たに自動地図更新サービスが追加されています。最大、年6回と高い頻度で更新し、鮮度の高い地図情報を利用できます。


「レクサス」電動化戦略を拡大

トヨタ自動車は5月、高級ブランド「レクサス」で、同ブランド初となるプラグインハイブリッド車 (PHV) を2021年、電気自動車 (EV) 専用モデルを22年に導入すると発表しました。レクサスでは25年までに全車種に電動車を設定し、同年までに10モデル以上の電動車を新たに投入する計画を掲げており、電動化を加速させる構えです。新たに投入するPHVやEVはこれまでハイブリッド車で培ってきたモーターやインバーター、バッテリーなどの電動化技術を活かし、さらに今後導入するEVでは、四輪駆動力制御技術「ダイレクト4」や直感的なステアリング操作を実現するステア・バイ・ワイヤといったEVならではの技術を導入し、新たな可能性を展望しています。



レクサスの革新的なEVモデル「LF-Zエレクトリファイド」。エッジの効いた、立体的なフォルムが特徴的。

 東京海上日動のおクルマ購入サポート制度をご利用ください。

 自動車販売店へご訪問する前にご相談ください。